

# 第60回定期演奏会

すぎやまこういち チェロのための「OKINAWA」 Sunrise - Sunset

ハイドン チェロ協奏曲 第1番 八長調

ベートーヴェン 交響曲 第3番 変ホ長調「英雄」

指揮・チェロ独奏 山本 裕康



2019年12月8日(日)

◆開演 17:00 (開場 16:30)◆

松本市音楽文化ホール・メインホール

入場料:1000円

主催 松本室内合奏団

後援:長野県、長野県教育委員会、松本市、松本市教育委員会、(公財)八十二文化財団、信濃毎日新聞社  
SBC信越放送、市民タイムス、長野エフエム放送、(公社)才能教育研究会

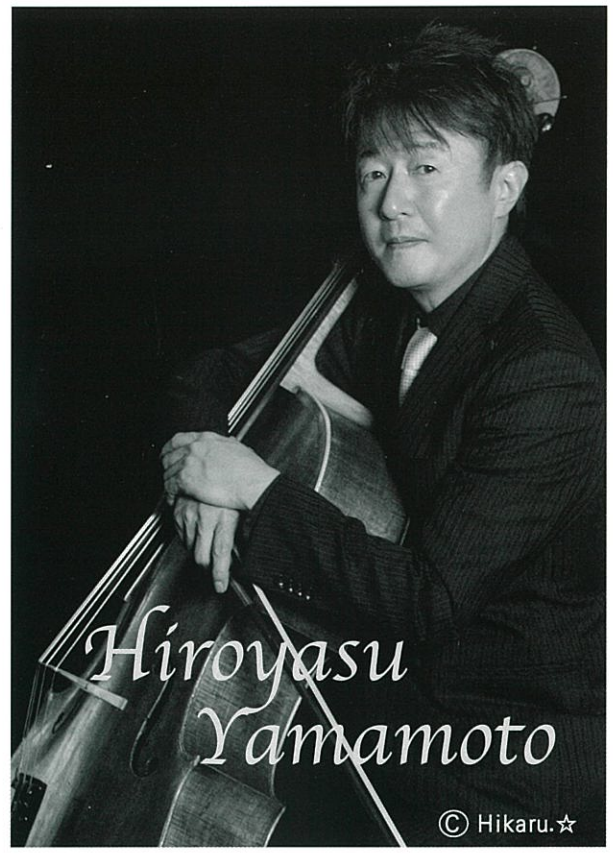
プレイガイド:松本市音楽文化ホール、井上プレイガイド、ミュージックプラザオグチ、クレモナ

<お問い合わせ>  
matsushitsu@gmail.com



# PROFILE

## 指揮・チェロ独奏 山本 裕康



愛知県出身。桐朋学園大学で井上頼豊、秋津智承、山崎伸子の各氏に師事。在学中1987年第56回日本音楽コンクール第1位、第1回日本室内楽コンクール第1位など数々の受賞歴を持つ。同大学を首席で卒業後、桐朋学園研究科ではピュイグ・ロジェ、キジアーナ音楽院等でリッカルド・ブレンゴラーの下で研鑽を積む。1990年東京都交響楽団首席奏者に就任。

1994年退職後広島交響楽団の客演ソロ奏者を経て1997年神奈川フィルハーモニー管弦楽団首席奏者に就任。これまでに同楽団とハイドン、シューマン、ドヴォルザーク、グルダ、コルンゴルト、リヒャルト・シュトラウスのドン・キホーテなど多数の協奏曲をソリストとして共演し、そのどれもが好評を博している。サイトウ・キネン・オーケストラ、宮崎国際音楽祭に毎年参加、矢部達哉率いる「晴れた海のオーケストラ」の主要メンバーでもある。また室内楽の分野でも欠く事の出来ないチェリストとして多くの著名な音楽家と共演している。

チェロカルテットCello Repubblicaを主宰、宮川彬良氏と教育プログラムの2人のユニットや、生まれ故郷である名古屋で「大人の室内楽研究所」を立ち上げ、地域の文化向上をライフワークとするなど、活動は多岐に渡る。2008年のバッハの無伴奏チェロ組曲全曲に続き、2012年に発表したアルバム『情景』はレコード芸術誌上で準推薦盤の評価を得た。今年2019年3月末をもって神奈川フィルハーモニー管弦楽団を退団。

現在、京都市交響楽団特別客員首席奏者、セントラル愛知交響楽団客演首席奏者、また東京音楽大学、洗足学園音楽大学各講師として後進の指導にあたる。日本チェロ協会会員、みやざきチェロ協会名誉会員。



## 松本室内合奏団 ●

1989年2月、13名の弦楽器奏者が集まり結成された。「団員どうしが楽しく交流することはもちろん、純粋に音楽を楽しむ、また、より質の高い演奏を目指す」という指針をきっかけ、現在は県内外より約50名の団員が集まり、2管編成のオーケストラとして、年2回の定期演奏会を中心に活動を続けている。また、松本地域の音楽文化向上のため、他の演奏団体との交流も積極的に行っており、2005年7月には第6回定期演奏会より始まったベートーヴェン交響曲チクルスの集大成でもある「第9番」を信州あづみ野音楽祭にて、広上淳一氏の指揮のもと演奏。2006年はモーツァルト生誕250年にあたり、指揮に横島勝人氏を迎えオールモーツァルトプログラムに取り組んだ。

2010年には「みんなの第九コンサート」で小林研一郎氏と共演。また、まつもと市民オペラ、第1回「こうもり」、第2回「椿姫」、第3回「魔笛」、第4回「カルメン」、第5回「フィガロの結婚」、第6回「ちゃんちぎ」のオケを務める。2011年、松本市音楽文化ホール25周年記念演奏会に出演、久保田巧、鈴木学氏と共演。2015年の30周年記念演奏会にてヴァイオリンの安永徹氏と共演し好評を博す。

自らの研鑽を積むことを目的に、一流演奏家との共演も多く行っている。今までに、ヴァイオリンの宗倫匡、徳永二男、豊嶋泰嗣、ジェラルド・プーレ、チェロの林峰男、山崎伸子、ピアノの清水和音、若林頭、ハープの吉野直子、オルガンの保田紀子、ホルンの大野総一郎、ウィーン・フィルのホルン奏者ヴォルフガング・トムベック各氏と共演、いずれも好評を博す。

<https://mmce.exblog.jp/>